

令和7年度第2回国分寺市地域福祉推進協議会

日時：令和8年1月26日（月）

午後2時～午後3時30分

会場：リオンホール（cocobunji WEST5階）

出席委員 43人

【事務局】地域共生推進課重層的支援体制整備担当係長（渡部）

地域共生推進課職員（大坂）

次第

- 1 開会挨拶
- 2 国分寺市地域福祉推進協議会委員の活動の振り返り等について
- 3 令和7年度第1回国分寺市地域福祉推進協議会の振り返りについて
- 4 活動報告（ナビゲーター）
- 5 グループワーク『地域のつながりを深めよう』
- 6 令和8年度国分寺市地域福祉推進協議会について
- 7 閉会挨拶

資料

- 【資料1】新たな発見（前回振り返り用）
- 【資料2】ナビゲーター活動報告
- 【資料3】グループワークの進め方
- 【資料4】グループワーク名簿
- 【資料5】令和8年度地域福祉推進協議会について
- 【参考資料1】第1回成果物「新たな発見表」
- 【参考資料2】第1回成果物「活動内容マップ」

開会 午後2時

1 開会挨拶

【事務局説明】

開会挨拶及び資料確認を行い、併せて記録作成のための写真撮影及び音声録音について説明した。

2 国分寺市地域福祉推進協議会委員の活動の振り返り等について

【事務局説明】

「国分寺市地域福祉推進協議会委員の活動情報・取組情報（年度末）」については、2月中に依頼する予定であり、今回からLoGoフォームでの回答を考えている。2月末までに回答をお願いしたい。その後、事務局で取りまとめを行い、委員の皆さまにフィードバックする予定である。

3 令和7年度第1回国分寺市地域福祉推進協議会の振り返りについて

【事務局説明】

資料1「新たな発見（前回振り返り用）」について説明した。第1回のグループワークを通して、各地域で新たな気づきや発見があり、「居場所づくり」・「つながりづくり」・「地域づくり」がキーワードとして浮かび上がった。このため、第2回では「孤独・孤立」をテーマにしてグループワークを進めていくこととする。

4 ナビゲーター活動報告

【ナビゲーター：国分寺市民生委員・児童委員協議会 宮崎委員】

今年度ナビゲーターの国分寺市民生委員・児童委員協議会の宮崎委員から、資料2「ナビゲーター活動報告書」に沿って以下のとおり報告。

《報告内容》

現在、西町プラザのロビーを活用した「多世代交流ができる居場所づくり」を行っている。

ひかりエリアの委員と地域の居場所づくりについて話合の中で、私から地域活動の拠点となっている西町プラザのロビーを活用して、多世代が交流できる居場所がつかれないかと提案したところ、西町プラザの統括責任者も兼ねてから西町プラザの特性を生かして多世代が交流できる場所にしたいとの思いを持っていることが分かった。そこで、西町プラザ、地域包括支援センター、民生委員や地域福祉コーディネーターと居場所づくりについて話合いを行った。その後、一緒に活動してくれるボランティアや地域の方の参加者を募るためのチラシを作成し、賛同してくれた地域の方と居場所づくりのグループ「ひなたぼっこ西町」を立ち上げた。

この居場所を立ち上げたきっかけとなった、昨年度の地域福祉推進協議会でのグループワークについて少し話したい。まず、第1回では「地域でつながる交流の場」をテーマに、6か所の地域包括支援センターのエリアごとにグループワークを行った。各委員が活動している拠点や地域の社会資源を洗い出し、マップで見える化したことで、地域ならではの魅力や生活課題などの特徴を共有することができた。次に、第2回では「かけ算で地域の活動を考えよう」をテーマに、「こんな取組があつたらいいな」「こんな取組ならやってみよう」という視点で、地域活動のアイデアを出し合った。このグループワークで、私は自分の活動拠点である「ひかりエリア（光町・高木町・西町）」について考えることになった。グループワークをする中で、このエリアにある、乳幼児からお年寄りまで多世代が利用できる「西町プラザ」という複合施設を活用できないかという話になった。西町プラザは、1階がロビー、事務室、図書室、児童館、2階には、地域センター（会議室、学習室、和室、調理室）そして生きがいセンターがあります。同じグループの委員と意見を出し合う中で、「西町プラザの特性を生かした多世代が交流できる居場所を作りたい」、「西町プラザのロビーを活用して、乳幼児からお年寄りまでが交流できる居場所を作りたい」という意見があり、このグループワークを通して、地域の新たな魅力を発見することができた。

現状の活動に至るまでについては以下のとおり。（※詳細は資料2を参照）

〈第4回懇談会（7月3日）〉

西町プラザの指定管理者から、多世代交流事業の居場所づくりとして施設のロビーを使用する場合の

具体的な条件が提示された

〈第5回懇談会（8月1日）〉

年内にカフェをオープンするためのスケジュールと、カフェの日にパンの移動販売車に来てもらえるかも検討した。また、カフェの名前を「カフェひなたぼっこ」と決め、西町プラザまつりへの参加申込みをすることにした。

〈福祉センター訪問（8月8日）〉

福祉センター内にある「CAFE ARUKOT（アルコット）」を見学。

- ・指定管理者としてのカフェ開設までの手順や保健所への手続きについてアドバイスをもらう
- ・スタッフ全員でコーヒーの入れ方を実習

〈第6回懇談会（9月5日）〉

「CAFE ARUKOT（アルコット）」を見学した際の感想を出し合い、今後のスケジュールと具体的な動きを確認した

- ・「ひなたぼっこ西町」の広報用のチラシとカフェのウエルカムボードを作成する
- ・9月20日の西町プラザ利用者協議会に出席して10月19日の西町プラザまつりに「ひなたぼっこ西町」がカフェをプレオープンすることを説明する

〈第7回懇談会（10月8日）〉

市担当課より協議依頼書の許可が下り、多摩立川保健所へ営業許可申請書を提出し、カフェの営業許可が受理された。プレオープンに向けて、カフェを円滑に運営するために担当別に準備を進めた。カフェのスタッフはエプロンを着用することにした。市担当課の最終確認で指定管理者自主事業とのコラボ企画のため、カフェの名称を「ひなたぼっこ西町」に変更した。主催は、ひなたぼっこ西町と西町プラザ指定管理者として実施していくことになった。

〈プレオープン（10月19日）〉

西町プラザまつりでプレオープンする、来場者数は約100人と予想以上の成果となった。

〈オープン（10月31日）〉

「ひなたぼっこ西町」が本オープン。

- ・西町プラザの利用団体「篠笛の会」の皆さんが、オープンを記念して2回篠笛のコンサートをおこなう・オープンイベントには約40人近く来場

〈第3回オープン（11月14日）〉

来場者はおいしいパンを食べながら、おしゃべりにも花が咲き、ゆっくり過ごしてくれている印象だった・来場者は約35人とゆったり過ごしてもらう

〈第4回オープン（12月12日）〉

西町地域で活動している「こじかくらぶ」とのコラボでクリスマスコンサートを開催。来場者は約70人と予想を超える人数だった。

- ・児童館のイベントが終わってからクリスマスコンサートに参加予定だった親子さんたちの席を確保できなくて、立ち見になってしまう・次回に活かしたい

令和8年度は、年間開催予定表を活用して、地域の親子から高齢者まで誰もが安心して過ごせる居場所である「ひなたぼっこ西町」の活動を広く広報していきたい。そして、西町プラザの特徴を生かしながら、

地域の活動団体とコラボしながら、地域のつながりをより深め、ロビーコンサートやワークショップ、防災講座、各種出張相談など、様々なイベントを通して地域の皆さまの出会いの場所にしていきたい。

5 グループワーク『地域のつながりを深めよう』

資料3「グループワークの進め方」に沿ってグループワークを実施し、今回のグループワークの感想を地域福祉コーディネーターが発表した。

【①・②グループ：稲葉委員（地域福祉コーディネーター）】

①グループ…「困ったときに相談できない」孤立・孤独の状態をテーマにし、広報と相談支援、どこかにつなげる、幅広い分野のゲートキーパー育成をアクションとした。対応資源として、町内会代表が挨拶をする、民生委員にお願いする、地域情報を収集してつなげる、イベントのお知らせ、相談窓口へつなげるなどが挙げられた。SOSを出している該当者を見つけて、受信すると書いてあるが、この該当者を見つけ、つながるまでが難しいという話が出た。声を上げてもらえれば、対応資源を使用することや紹介ができるが、その前段階にみんなに関わっていくことが大事であり、そういう意味でも継続的なかかわりをつくり、つながりというところでみんなができることを補っていくことが大事であるという話になった。

②グループ…「一人暮らし」孤立・孤独の状態をテーマにし、幅広く話した。必要なアクションとして、交流関係、見守り、つなぐ、継続的なかかわりをつくるなどが挙げられた。①グループと同様に、イベントのチラシを持っていき、参加希望を募る、情報共有、制度・サービスの提供、SNSを使って情報提供することも挙げられていた。見守りや民生委員とのつながりなど、日々の挨拶も大事であること、つなぐ面では参加する場所、居場所などコンサート、イベント等への参加を促していく、継続的なかかわりとしては居場所づくりや一緒に参加する、部屋の掃除を手伝うなどを議論した。

【③・④グループ：野村委員（地域福祉コーディネーター）】

③グループ…「高齢や障害など課題のある一人暮らし」をテーマにし、情報を届けることがとても大切であり、例えば専門機関の情報を伝えたり、社会福祉協議会の情報を伝えたりなど、そういったところの情報提供がとても大切である。また、日頃の挨拶や声かけといった日常のかかわりが情報共有に生きてくるということを話し合った。参加と呼びかけでは、自分で参加できるような場所をつくり、維持していく、例えば、自治会活動や防災会の活動など、一人暮らしの孤立・孤独の方がつながれる場を維持すること、居場所をつくりつつも積極的に呼びかけることが大事であるという話も出た。つながりたくないという思いがある方も多いと思うが、SOSを出そうと思った方へつながれるように、こちらからのアプローチは大切である。ポスティングは、ただチラシを配るのではなく、声かけを含めてやっていくという話になった。

④グループは…「高齢者の一人暮らし（男性）」の状態にある孤立・孤独をテーマにし、見守りや交流を具体的に進めていくということ、定年後の男性が生きがいを持つのは難しいという話があった。男性の方が孤立しやすいので、私たちが生きがいになるような魅力あるイベントやボランティア活動などについて積極的に声かけしていくことが大事という話になった。

【⑤・⑥グループ：山崎委員（地域福祉コーディネーター）】

⑤グループ…「障害をお持ちで一人暮らし」をテーマにした。必要なアクションとして、「情報提供・つながりをつくる・見守り」が出た。「情報提供」に対する対応資源として、具体的な制度の情報を伝える、チラシを渡す、ふだんから声かけを意識して挨拶をすることが挙げられた。「見守り」に対する対応資源として、状態の変化を知ること、常にその世帯を見守っていくことが大事だという話になった。⑥グループも同じような視点を頂き、振り返りでは世帯として起きた後のことを考えていたが、課題がないときに事前につながりをつくったり、地域包括支援センターにつながりをつくることはないと思うので、地域包括支援センターが主催しているレクリエーションやサロンなどに予防的に参加してもらい、何かあったときにすぐにつながれるという状況をつくっておくことが大事なのではないかという話があった。

⑥グループ…「伴侶が亡くなった世帯 特に”男性”」をテーマにした。⑤グループではなかった点としては、必要なアクションに「お願いする」があった。⑤グループで振り返りをしたときに、こういうときに支えてあげる、支援してあげるという視点になるが、そうではなく、孤独・孤立状態にある人に役割をもってもらうという視点で支援していくことも大事なのではないかという話になった。あとは、男性だと防災などのワードに興味を持つ方も多く、そういうところを打ち出していけると良いのではないかという話になった。

6 令和8年度国分寺市地域福祉推進協議会について

【事務局説明】

資料5「令和8年度地域福祉推進協議会について」説明した。来年度の地域福祉推進協議会では、人と地域資源をつなげることで社会的孤立を解消する協力型のカードゲームである「コミュニティコーピング」というゲームを行う。

7 閉会挨拶

【宮崎会長】

今年度の地域福祉推進協議会では、仲間づくりを年間テーマに掲げ、多世代交流の居場所づくりのために立ち上げた「ひなたぼっこ西町」のカフェを開設するまでの経緯と様子について、ナビゲーターとして私の方から報告をさせていただきました。地域活動を進めていくためには、仲間・集う場所・活動のコーディネートが重要だと思います。人と人のつながりや地域とのつながりを大切にした多世代交流の取り組みをこれからも進めていきたいと思っています。

・第1回目のグループワークでは、活動・情報シートから見えてきた課題を深堀することで、新たな発見や共通点をグループ内で共有しました。

本日2回目は、「地域のつながりを深めよう」をテーマにグループワークを行い、自分の地域の現状を発信することで、地域で新たな気づきや発見があり、そこから居場所づくりやつながりづくり、地域づくりがキーワードとして浮かび上がってきたと思います。また、国が推進する「孤独・孤立対策」に焦点を置いて、地域の中で支援が届かずに、悩みを抱えている「社会的孤立」を、どのように解消していったら良いかという検討をしていただきました。社会的孤立というのは、一般的に社会とのつながりが少ない人や客観的な状態のことを示しますが、個別で見ると、地域とのつながりを求めているのにきっかけがないだけの方もいれば、一方で、地域とのつながりをそもそも求めていない方もいると思います。このため、孤独・孤立対策は、当事者の立場に立って考えながら、人と人とのつながりが生まれる社会を目指

しています。

昔から地域にはいろんな人が暮らしています。そんな地域で生活を維持するのであれば、色んな人がいて良いと思っています。一緒に何か取り組まなくても、子供の声が聞こえるか、音が聞こえるという距離が大事なことはないかと感じております。

今回のグループワークでどのような状態にあると孤独・孤立なのか考える、どのようなアクションを起こせば良いのか対策や取組についても、日頃の皆様の活動がどのように生かされているのかを共有することで、地域の繋がりをさらに深める機会になったのではないかと思います。

これをきっかけに、地域で繋がりそうな人や団体と積極的に声をかけ合って、地域のあちらこちらでマッチングの花を咲かせていただきたいと思います。

本日は長時間になりましたが、これで閉会とさせていただきます。

1年間ありがとうございました。来年度も元気にお会いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

閉会 午後3時30分